

令和5年度
全国学力・学習状況調査

＝留萌市における調査結果の概要＝

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	15 P
IV	おわりに	27 P

令和5年12月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 等

※上記のアとイを一体的に問う調査問題

② 学習や生活の諸側面等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣 等

(2) 学校に対する質問紙調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況 等

4 調査実施日

令和5年4月18日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	18,641 校	964,350 人	9,369 校	893,114 人
北海道(公立)	947 校	35,657 人	571 校	34,259 人
留 萌 市	5 校	122 人	2 校	108 人

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

- (1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- (2) 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

備 考

※全国平均との差に関する表現について

- ・ 7%以上 相当高い 相当低い
- ・ 5%以上 7%未満 高い 低い
- ・ 3%以上 5%未満 やや高い やや低い

※文部科学省は平均正答率について、整数値で公表しているが、留萌市では、進めてきた指導改善の成果を検証するため、従来のデータと整合性をもたせた分析が必要と判断し、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で示している。

II 教科調査結果の概要

1 平均正答率から見る学力の状況

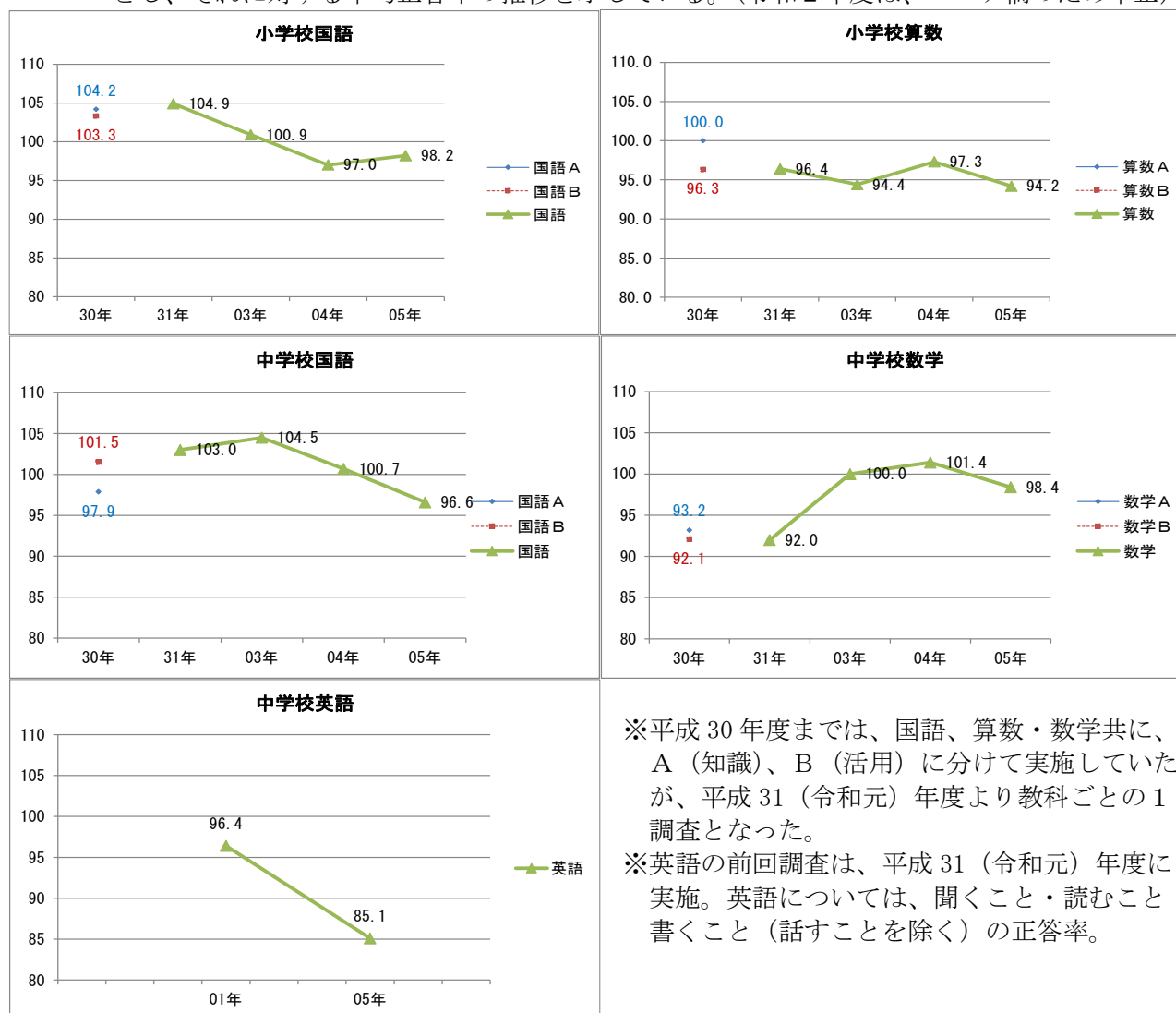
(1) 令和5年度各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
留萌市	66.0	58.9	67.4	50.2	38.8
北海道	65.8	61.0	69.4	49.3	43.9
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
北海道との差	+0.2	-2.1	-2.0	+0.9	-5.1
全国との差	-1.2	-3.6	-2.4	-0.8	-6.8

※英語は、聞くこと・読むこと・書くことの調査結果（話すことは除く）

(2) 全国の平均正答率を100としたときの留萌市の平均正答率の推移

※調査問題が異なり、平均正答率を単純に比較することができないため、全国の平均正答率を100とし、それに対する平均正答率の推移を示している。(令和2年度は、コロナ禍のため中止)



※平成30年度までは、国語、算数・数学共に、A（知識）、B（活用）に分けて実施していたが、平成31（令和元）年度より教科ごとの1調査となった。

※英語の前回調査は、平成31（令和元）年度に実施。英語については、聞くこと・読むこと・書くこと（話すことを除く）の正答率。

- ◆国語は、全国の平均正答率を小学校で1.2ポイント、中学校で2.4ポイント下回った。算数・数学は、全国の平均正答率を小学校で3.6ポイント、中学校で0.8ポイント下回った。中学校英語は、前回調査より差が広がり、全国の平均正答率を6.8ポイント下回った。
- ◆全国の平均正答率を100とすると、国語は、昨年度までの過去4回（平成30年度以降）、小・中学校共に97を上回っており、全国平均以上かほぼ平均並みで推移していた。今年度は、小・中学校共にほぼ全国平均並ではあるが、平均正答率をやや下回っている。算数・数学は、令和3年度までは、100以下で推移していたが、中学校では令和3年度以降、全国の平均正答率と同等となっている。

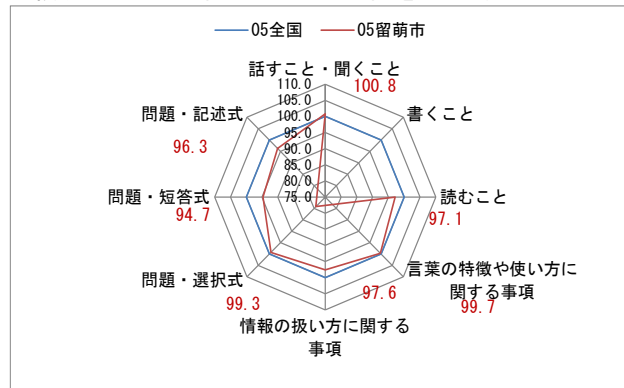
2 小学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.2問／14問	66.0%
北海道	9.2問／14問	65.8%
全国	9.4問／14問	67.2%

(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

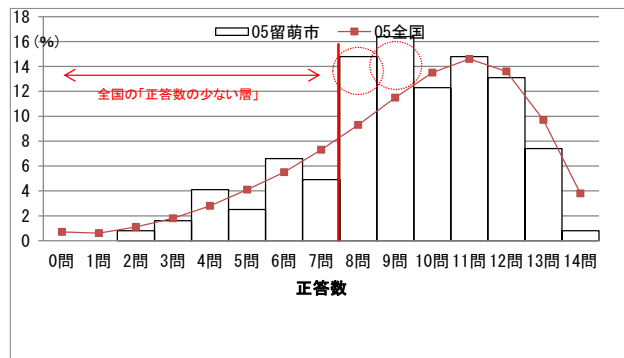
- ◆「話すこと・聞くこと」の領域は、全国と同様であり、「書くこと」の領域は、全国と比べて相当低くなっている。
- ◆記述式の問題は、全国とほぼ同等であり、短答式の問題は、全国と比べてやや低くなっている。

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)



(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国の11問に対して9問である。
- ◆正答数が8問、9問の児童数の割合が、全国と比べて高くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H30	A : 8 / 12問	B : 6 / 8問
H31	12 / 14問	
R 3	6 / 14問	
R 4	7 / 14問	
R 5	5 / 14問	

②平均正答率が全国以下の設問から (※3ポイント以上の差がある問題)

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る。	【川村さんの文章】の空欄に学校の米づくりの問題点と解決方法を書く。	18.9%	26.7%
言葉の特徴や使い方に 関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る。	【川村さんの文章】の下線部アを漢字を使って書き直す。(いがい)	45.1%	52.8%
読むこと	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかを見る。	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する。	86.9%	90.0%
読むこと	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る。	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く。	51.6%	56.2%
話すこと・聞く こと	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中から中心を捉えることができるかどうかを見る。	【インタビューの様子】の傍線部ア (～ということだと思いますが、ありますか) のように質問した理由として適切なものを選択する。	70.5%	73.6%

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【書くこと】

○図表などを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする

- ・図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果など事実の記述は、図表やグラフを用いる方が自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなる。指導に当たっては、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

○同じ読み方をする漢字を注意して使えるようにする

- ・漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書けるようにし、文や文章の中で使うように指導することが重要である。指導に当たっては、同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。

【読むこと】

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめられるようにする

- ・文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、既存の知識などと結びつけて自分の考えを形成することが重要である。そのためには、文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識してまとめることが必要になる。指導に当たっては、複数の本や資料を読んで分かったことを整理したり、分かったことと既存の知識や体験などに結びつくものを考えたりしながら、自分の考えをまとめられるようにすることが大切である。

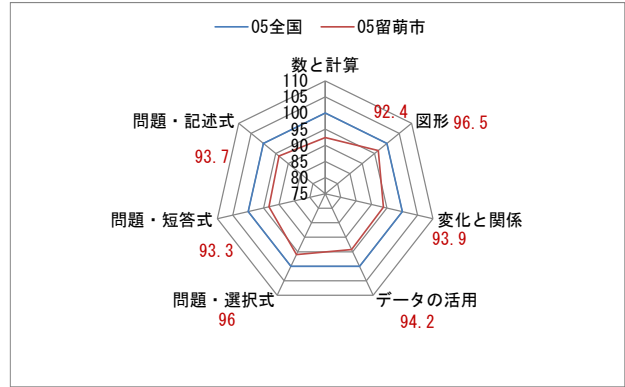
3 小学校算数

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.4問／16問	58.9%
北海道	9.8問／16問	61.0%
全国	10.0問／16問	62.5%

(1) 「領域別正答率」の傾向

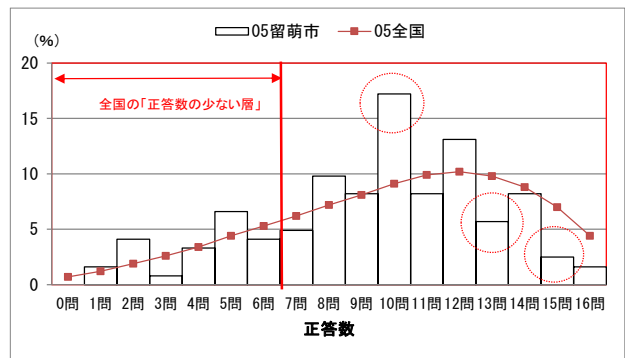
- ◆「図形」の領域は、全国とほぼ同様であり、「数と計算」の領域は、全国と比べて低くなっている。
- ◆選択式の問題は、全国とほぼ同様であり、短答式の問題は、全国と比べて低くなっている。

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)



(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国の12問に対して10問である。
- ◆正答数が10問の児童数の割合が、全国と比べて高く、正答数13問、15問の児童数の割合が、全国と比べて低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H30	A : 6 / 14問	B : 4 / 10問
H31	5 / 14問	
R 3	4 / 16問	
R 4	4 / 16問	
R 5	5 / 16問	

②平均正答率が全国以下の設問から (※3ポイント以上の差がある問題)

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
変化と関係	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る。	椅子4脚の重さが7kgであることをもとに、48脚の重さの求め方と答えを書く。	46.7%	55.5%
数と計算	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかを見る。	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する。	77.0%	80.8%
図形	正方形の意味や性質について理解しているかどうかを見る。	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。	81.1%	87.2%
図形	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかを見る。	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。	13.9%	24.9%
数と計算	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかを見る。	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ。	65.6%	70.3%

数と計算	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方や答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件にあてはまるかどうか判断できるかを見る。	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。	46.7%	56.7%
数と計算	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかを見る。	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める。	66.4%	72.4%
変化と関係	百分率で表された割合について理解しているかどうかを見る。	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。	39.3%	46.0%
数と計算 データの活用	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかを見る。	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める。	68.9%	75.7%
データの活用	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかを見る。	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ。	59.0%	64.6%

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【変化と関係】

○変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求められるようにする

- ・伴って変わる二つの数量について、比例の関係にあることを用いて筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求められるようにすることが重要である。指導に当たっては、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について、表などを用いて一方がX倍になるから他方もX倍になるなど、変化の規則性を基に説明できるようにすることが大切である。さらに、なぜそのような計算で知りたい数量の大きさを求めることができるかについて振り返り、比例の関係にあることに基づいて解決できたことを確認することも大切である。

○百分率で表された割合について理解できるようにする

- ・日常の生活場面における百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。指導に当たっては、基準量を自ら決めて、百分率で表された割合から、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。その際、百分率は基準量を100としたときの比較量の割合であることから、30%とは、100人を基準量としたとき、30人が比較量となることを捉えられるようにすることが大切である。

【数と計算】

○一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算ができるようにする

- ・一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算を確実にできるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、 50×40 と 50×4 の関係を考える活動において、図などを用いて、 $50 \times 40 = (50 \times 4) \times 10$ で、 50×40 を 50×4 の10倍として捉えることができるようにすることが大切である。また、計算した後は、問題場面に戻り、 50×40 について200としている場合、 50×4 が200になることから200は妥当ではないと判断できるようにすることも大切である。

○加法と乗法の混合した計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるようにする

- ・計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりすることができるようにすることが重要である。指導に当たっては、 $(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ の計算の答えを比べ、答えが同じになることを確かめる活動が考えられる。その際、同じ場面を異なる二通りの捉え方をして、それぞれの捉え方について式で表し、それらの答えが同じになることを理解できるようにすることが大切である。

(次のページにつづく)

【図形】

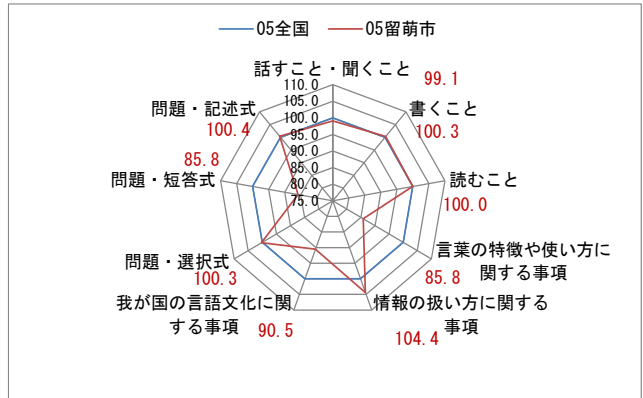
○図形の構成の仕方を基に、図形の意味や性質について考えることができるようにする

- ・図形の学習では、図形の構成の仕方を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の意味や性質について考察できるようにすることが重要である。指導に当たっては、例えば、テープ折ったり切ったりする操作を通して図形をつくり、その過程の中で、図形の意味や性質について考える活動が考えられる。その際、どこどこを重ねて折ったのか、どこどこを重ねて切ったのかなどの操作を基に、考察している図形の辺の長さや角の大きさなど、その性質に着目して、どんな図形であるかを説明できるようにすることが大切である。

4 中学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	10.1問／15問	67.4%
北海道	10.4問／15問	69.4%
全国	10.5問／15問	69.8%

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)

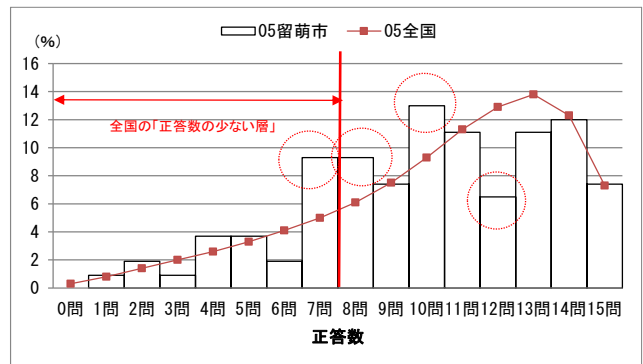


(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆全ての領域で、全国と同様となっている。
- ◆選択式・記述式の問題は、全校と同様であり、短答式の問題は、全国と比べて相当低くなっている。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の13問に対して10問である。
- ◆正答数が7問、8問、10問の児童数の割合が、全国と比べて高く、正答数12問の生徒数の割合が、全国と比べて低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H30	A : 14／32問	B : 6／9問
H31	8／10問	
R 3	11／14問	
R 4	5／14問	
R 5	8／15問	

②平均正答率が全国以下の設問から (※3ポイント以上の差がある問題)

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと 聞くこと	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかを見る。	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する。	72.2%	76.6%
言葉の特徴や 使い方に 関する 事項	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかを見る。	漢字を書く (おし量って)	24.1%	43.9%
我が国の言語 文化に 関する 事項	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかを見る。	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(いひける)	69.4%	82.5%

我が国の言語文化に関する事項	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかを見る。	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す。(いと)	67.6%	74.1%
----------------	---	--------------------------------------	-------	-------

◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【話すこと・聞くこと】

○話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるようにする

- ・話し手に質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。その際、目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりすることができるようにすることが大切である。例えば、実際にインタビューをする学習の中で、共通の目的や状況を設定し、それらに応じた質問の仕方や内容、適切なタイミングなどを検討する活動を位置付けることが考えられる。振り返り際には、録画した動画を視聴するなど、ICT機器を活用することも効果的である。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

○漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

- ・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法等の知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり、書いたりすることができるように指導することが重要である。その際、文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」や他教科等の学習の中でも漢字の書きについて意識するようになることが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

【我が国の言語文化に関する事項】

○音読に必要な文語のきまりについて理解することができるようにする

- ・古典の世界に親しむためには、文章を繰り返し音読して、その独特なリズムに生徒自らが気付くことが重要である。その際、歴史的仮名遣いなど現代の口語とは異なる古文特有のきまりについて、教材に即して指導することが大切である。指導場面では、歴史的仮名遣いで書かれている言葉をどのように読むのかを確認し、その規則性について整理しながら文語のきまりを文章の具体的な表現と結び付けて理解できるようにすることが有効である。

5 中学校数学

	平均正答数	平均正答率
留萌市	7.5問／15問	50.2%
北海道	7.4問／15問	49.3%
全国	7.6問／15問	51.0%

(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆「データの活用」「図形」「関数」の領域は、全国とほぼ同様であり、「数と式」の領域は、全国と比べてやや低くなっている。
- ◆短答式・記述式の問題は、全国と同様であり、選択式の問題は全国と比べて低くなっている。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の9問に対して7問である。
- ◆正答数が7問の生徒数の割合が、全国と比べて高く、正答数6問、11問の生徒数の割合が、全国と比べて低くなっている。

(3) 設問別の正答率の概要

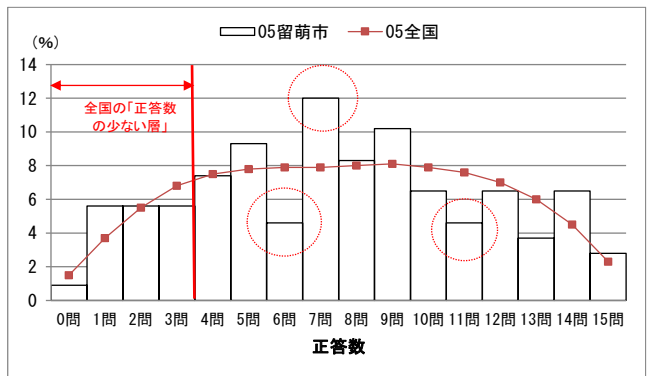
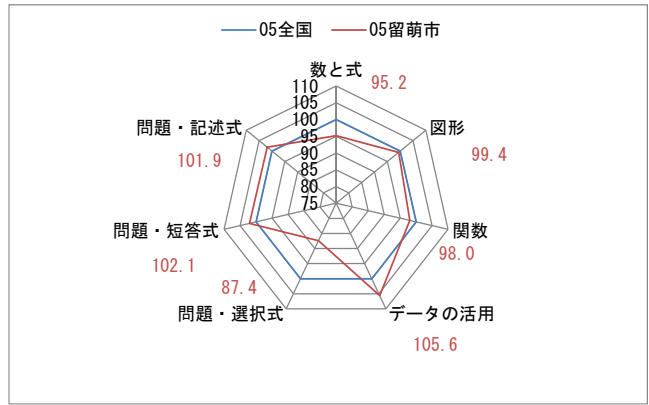
①平均正答率が全国以上の設問数

H30	A : 9 / 36問	B : 1 / 14問
H31	3 / 16問	
R 3	9 / 16問	
R 4	10 / 14問	
R 5	5 / 15問	

②平均正答率が全国以下の設問から（※3ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	数と整式の乗法の計算ができるかどうかを見る。	$12(X/4 + Y/6)$ を計算する。	72.2%	80.5%
関数	反比例の意味を理解しているかどうかを見る。	YがXに反比例し、比例定数が3のとき、Xの値とそれに対応するYの値について、正しい記述を選ぶ。	28.7%	42.8%
数と式	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し、説明することができるかどうかを見る。	はじめの数にかける数はいくつ、たす数はいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する。	37.0%	40.9%
関数	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかを見る。	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ。	56.5%	61.7%

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)



◇◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◇

【数と式】

○文字を用いた式の計算が確実にできるようにする

- ・文字を用いた計算が確実にできるようにするために、計算の法則を確認したり、計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。指導に当たっては、誤りを含む計算の例を提示して、その誤りを指摘する学習場面を設定することが考えられる。その際、計算の法則を確認しながら、どのように計算すれば正しく計算結果を導き出すことができるかを検討することが有効である。このようにして、正しい計算過程とそこで用いる原理・法則の理解を深めることができるようにすることが重要である。

【関数】

○反比例の意味を理解できるようにする

- ・反比例の意味を理解できるようにするために、反比例の特徴を表や式などと関連付けて捉えることができるようにすることが大切である。指導に当たっては、反比例の特徴を調べるために、「 y は x に反比例し、比例定数は3である」から、式が $y = 3/x$ となることを確認した上で、 x にいくつかの値を代入して y の値を求めたものを表にまとめ、対応する x の値と y の値の積が3となることから、 $xy = 3$ という関係があることを確認することが考えられる。このような活動を通して、「 x の値と y の値の積は一定で、比例定数に等しい」という反比例の特徴を表や式 $y = a/x$ 、比例定数 a などと関連付けて捉え、反比例の意味を理解することができるようにすることが重要である。

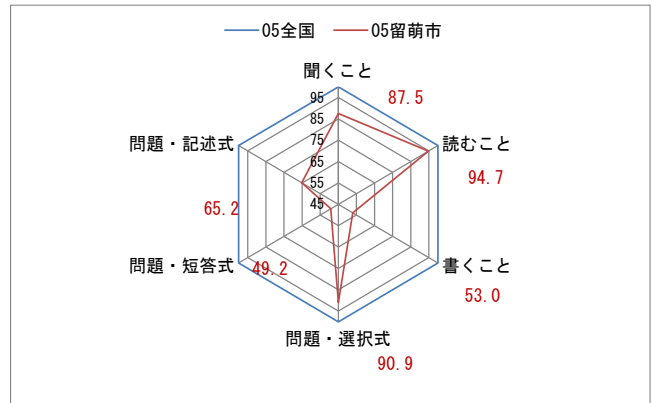
○数学的に表現された結果を事象に即して解釈することができるようにする

- ・数学的に表現された結果を事象に即して解釈できるようにすることが大切である。その際、問題の中で理想化・単純化されているものを確認する場面を設定することが必要である。指導に当たっては、駅伝についての速報を提示し、A大学がB大学に追いつく地点を予想する学習活動の中で、両大学の各地点の記録をまとめた表を基に点を取り、それぞれの点が一直線上にあると考えてグラフを直線で表すことが、どのような仮定に基づいているのかを捉えさせることが考えられる。その際、グラフが直線であるということは、変化の割合が一定であることを表し、 x が時間、 y が道のりを表していることから、それぞれの走る速さは一定であると考えたことになると捉えられるようにすることが大切である。

6 中学校英語（聞くこと・読むこと・書くこと）

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.6問／17問	38.8%
北海道	7.5問／17問	43.9%
全国	7.7問／17問	45.6%

（領域別の平均正答率の状況～全国を100とする）

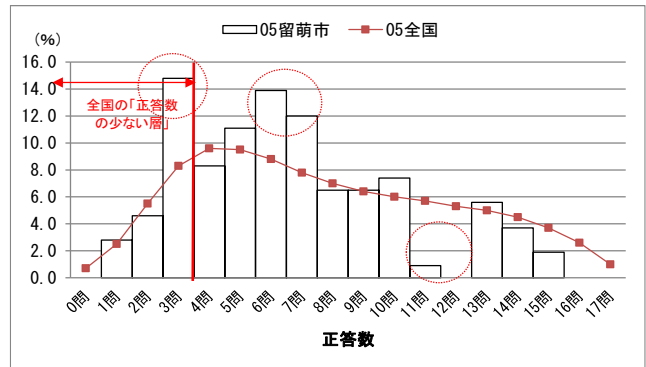


(1) 「領域別正答率」の傾向

- ◆「読むこと」の領域は、全国とほぼ同様であり、「聞くこと」「書くこと」の領域は、全国と比べて相当低くなっている。
- ◆選択式・記述式の問題は、全国と比べてやや低く、短答式の問題は、全国と比べて相当低くなっている。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆17問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の4問に対して3問である。
- ◆正答数が3問、6問、7問の生徒数の割合が全国と比べて高く、正答数11問、12問の生徒数の割合が、全国と比べて低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H31	7／21問
R 5	3／17問

②平均正答率が全国以下の設問から（※3ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
聞くこと	情報を正確に聞き取ることができるかどうかを見る。	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。	75.9%	79.0%
聞くこと	情報を正確に聞き取ることができるかどうかを見る。	買い物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。	28.7%	49.8%
聞くこと	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかを見る。	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する。	57.4%	61.1%
聞くこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかを見る。	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する。	26.9%	41.2%
聞くこと	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかを見る。	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する。	50.0%	54.8%
読むこと	情報を正確に読み取ることができるかどうかを見る。	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する。	52.8%	56.0%

読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかを見る。	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する。	27.8%	35.9%
読むこと	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかを見る。	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する。	30.6%	34.7%
読むこと	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかを見る。	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する。	42.6%	56.1%
書くこと	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを見る。	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。	13.9%	19.5%
書くこと	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかを見る。	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。	20.4%	40.4%
書くこと	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかを見る。	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。	10.2%	20.9%
書くこと	「相手の行動を促す」という言葉の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかを見る。	メールの英文を依頼する表現に書き換える。	13.9%	29.0%
書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを見る。	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。	3.7%	7.4%

◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆

【聞くこと】

○自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるようにする

- ・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、何が自分にとって必要な情報かを明確にした上で聞き取ることが重要である。指導に当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが必要である。

【読むこと】

○自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取ることができるようにする

- ・自分の置かれた状況などから判断して、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取るためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、何が自分にとって必要な情報かを明確にした上で読み取ることが重要である。指導に当たっては、日常的话题に関して、できるだけ現実に近い場面を設定するとともに、文の一語一語の意味を全て理解する逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を読み取らせることが大切である。その際、必要な情報と不要な情報を整理しながら読むといった指導が考えられる。

(次のページにつづく)

○意見文を読んで、要点を捉えることができるようにする

- ・意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。指導に当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして、最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりできるようにすることが大切である。

【書くこと】

○場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができるようにする

- ・場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが重要である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていくことが大切である。指導に当たっては、文脈に応じて文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項の理解を深めたりする活動や、相手に正しく伝わるように、読み直して修正したり、ペアでチェックし合ったり書き直したりする活動などが考えられる。

○言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けることができるようにする

- ・言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けるためには、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。指導に当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えられるようにすることが大切である。

7 中学校英語（話すこと） ※参考

「話すこと」の調査は、実施当日の他、期日内（～5/26）に実施している学校もあり、平均正答率は推計値である。国は、当日実施した学校の調査結果に統計的補正をかけ、全国値として推定したものを公表している。そのため、「話すこと」については参考データとして示した。

	平均正答数	平均正答率
留萌市	0.4問／5問	7.4%
全国	0.6問／5問	12.4%

◎設問別の正答率の概要

○平均正答率が全国以下の設問から（※3ポイント以上の差がある問題）

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと （やり取り）	日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかを見る。	動物園でのやり取りの中で、留萌市の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える。	13.3%	19.0%
話すこと （やり取り）	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかを見る。	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留萌市が質問する。	2.9%	13.4%
話すこと （やり取り）	日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかを見る。	動物園でのやり取りの中で、留萌市の質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝える。	11.4%	16.1%
話すこと （発表）	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかを見る。	環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える。	1.0%	4.2%

◆◆主な指導改善のポイント～平均正答率から見た改善の方向◆◆

【話すこと～やり取り】

○基本的な表現を理解して、即興で伝え合うことができるようにする

- ・日本語で書かれた看板やポスターなどの情報を英語で説明することは、生徒が日常生活で行う可能性が高い言語活動であり、その際、基本的な語彙や表現を理解して正しく伝えることが重要である。指導に当たっては、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる活動が考えられる。言語活動に際しては、小学校から慣れ親しんでいる月日や序数、数字、誕生日などに関する語彙や表現を繰り返し使用させることで確実に定着を図る必要がある。

○対話を継続・発展させるために、関連する質問をすることができるようにする

- ・対話を継続・発展させるためには、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の話を受けて、自分のことを伝えるだけでなく、関連する質問を付け加えることなどが重要である。指導に当たっては、会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座に行う活動が考えられる。言語活動に際しては、Yes-No疑問文やorを含む選択疑問文、Wh-疑問文などについて、語順、動詞の形の変化、イントネーションなどを意識するように指導者が声かけをすることが大切である。

【話すこと～発表】

○聞いたことを基に自分の考えとその理由を話すことができるようにする

- ・聞いたことを基に自分の考えとその理由を話す際には、聞いて得た知識や情報について自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話すことが重要である。指導に当たっては、得た知識や情報のメモを基に、内容を要約して伝えたり、印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動や、聞いたことについてなぜそのように考えたのか、簡単な理由や根拠などを添えて、効果を考慮して伝える活動などが考えられる。言語活動に際しては、複数の領域を統合した活動の充実を図ること、メモの取り方や活用の仕方についての指導を行うこと、聞いたり読んだりした内容について、生徒自身の考えを述べる活動を行うこと、活動の中で発話の正確さを高める指導を行うことなどに留意することが大切である。

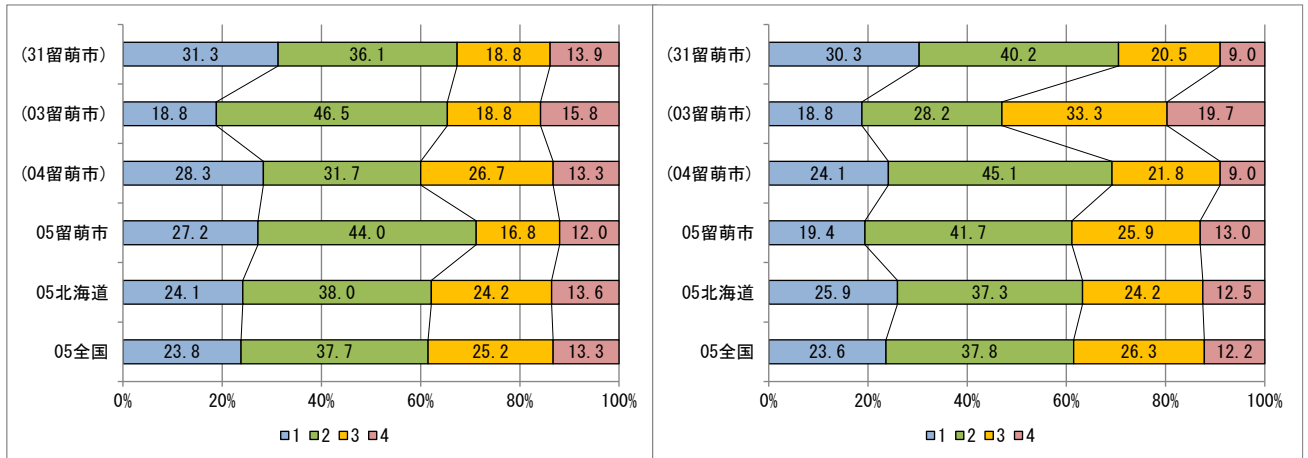
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。

1 学習に対する興味・関心や授業の理解度等<児童生徒>

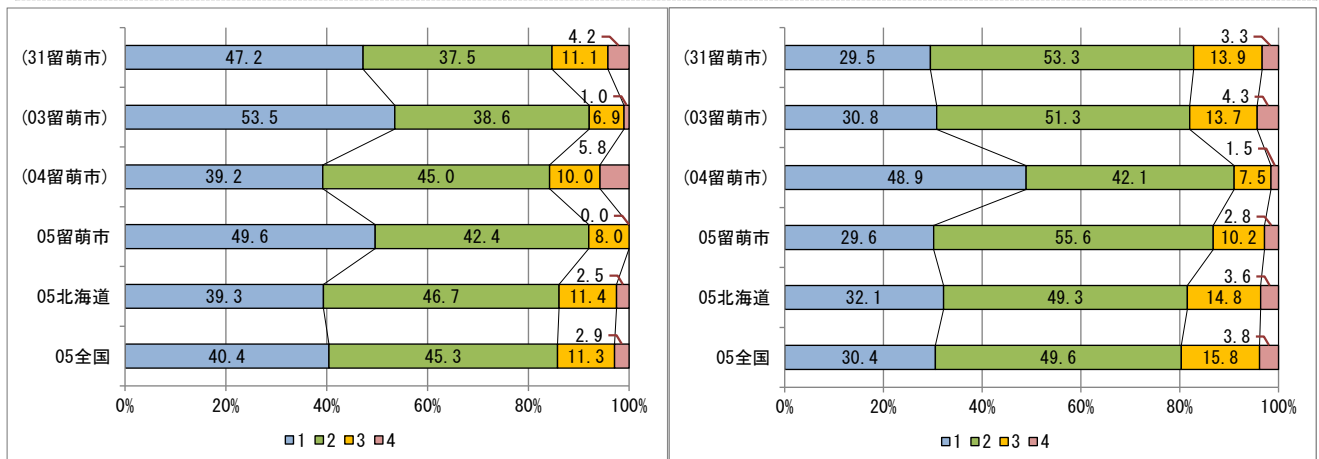
(1) 国語の勉強は好きですか

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



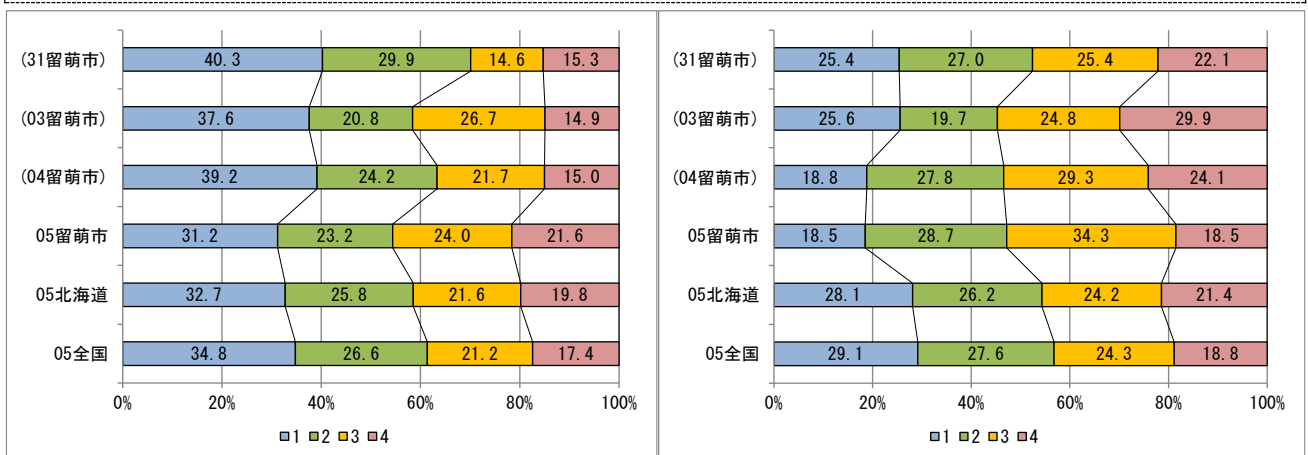
(2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



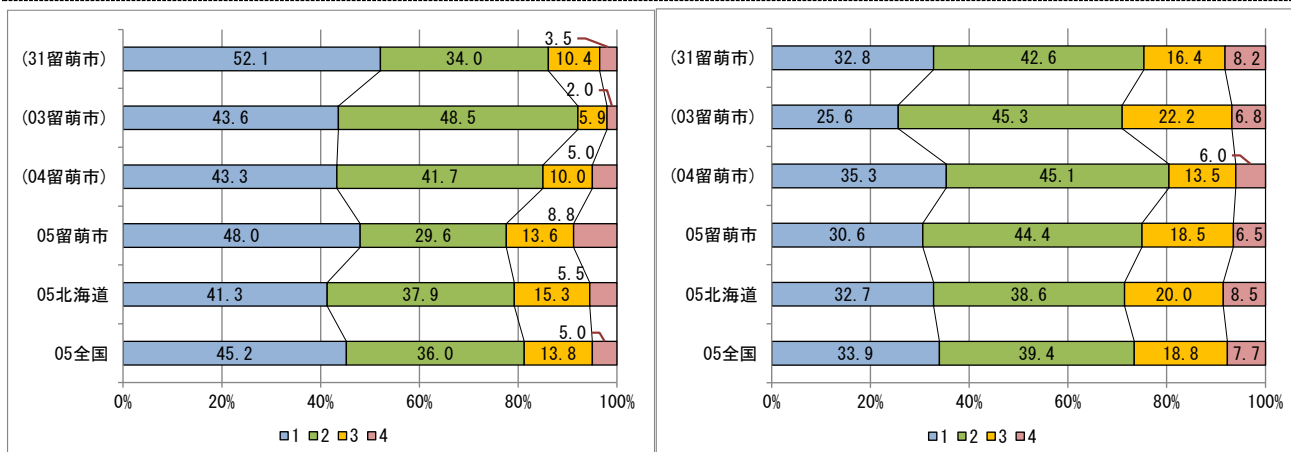
(3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



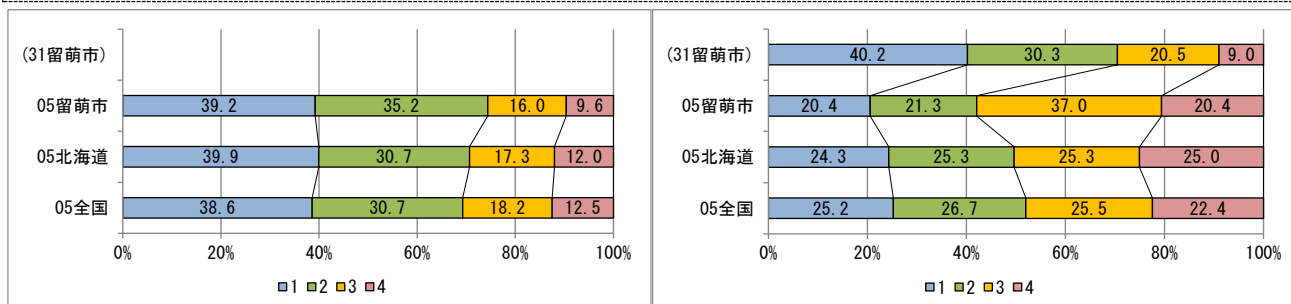
(4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



(5) 英語の勉強は好きですか

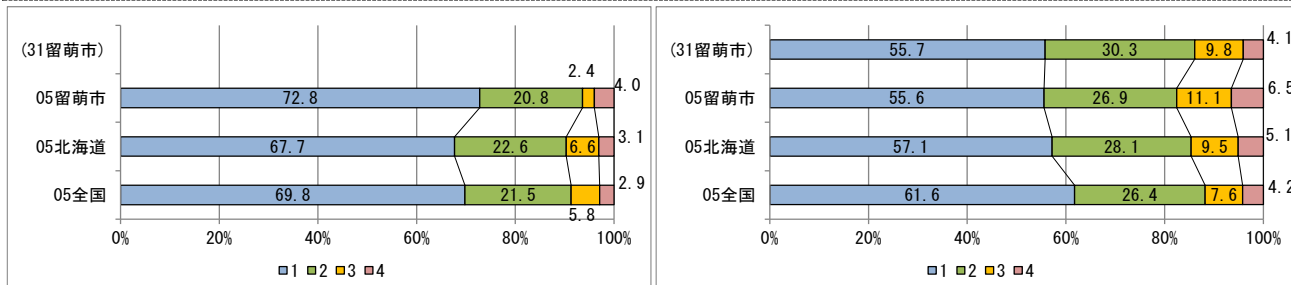
選択肢は(1)と同様



※平成31年度、小学校にはこの質問項目はない。

(6) 英語の勉強は大切だと思いますか

選択肢は(1)と同様



※平成31年度、小学校にはこの質問項目はない。

【小学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和4年度と比べても相当高い。
- ◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高く、令和4年度と比べると相当高い。
- ◆算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国と比べて相当低く、令和4年度と比べても相当低い。
- ◆算数の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや低く、令和4年度と比べると相当低い。
- ◆英語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高い。
- ◆英語の勉強は大切であると肯定的に回答した児童の割合は、全国とほぼ同様である。

(次のページにつづく)

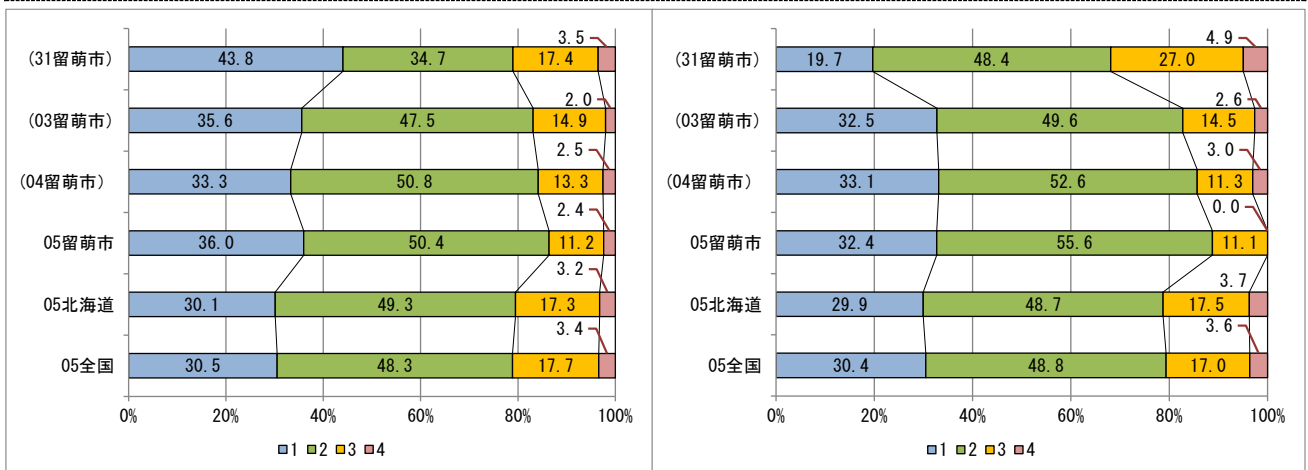
【中学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国と同様であり、令和4年度と比べると相当低い。
- ◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高く、令和4年度と比べると低い。
- ◆数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和4年度と同様である。
- ◆数学の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、令和4年度と比べると低い。
- ◆英語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和4年度と比べても相当低い。
- ◆英語の勉強は大切であると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より低い。

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等に関する取組状況<児童生徒・学校>

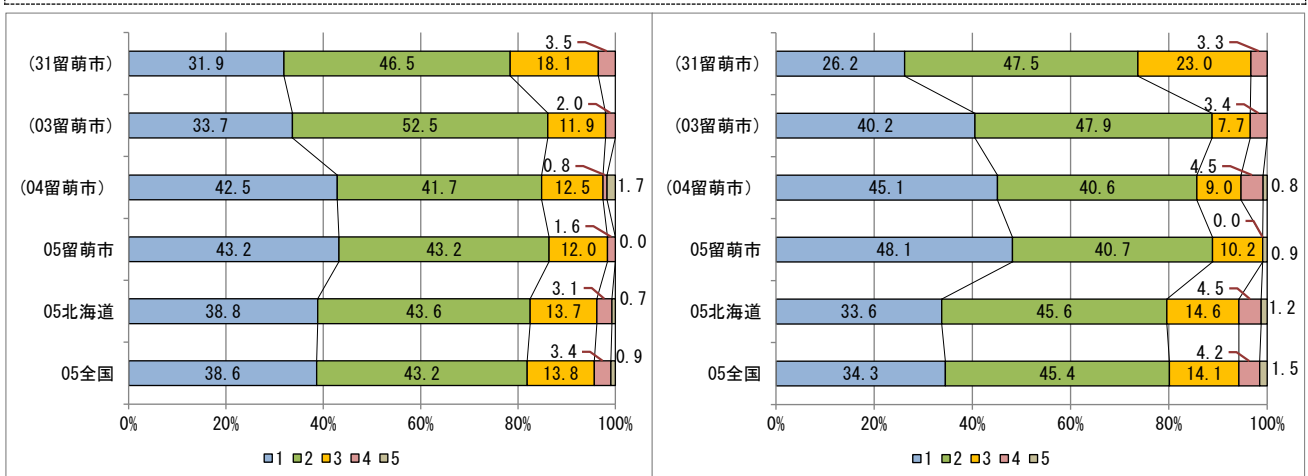
(1) 5年生までに(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



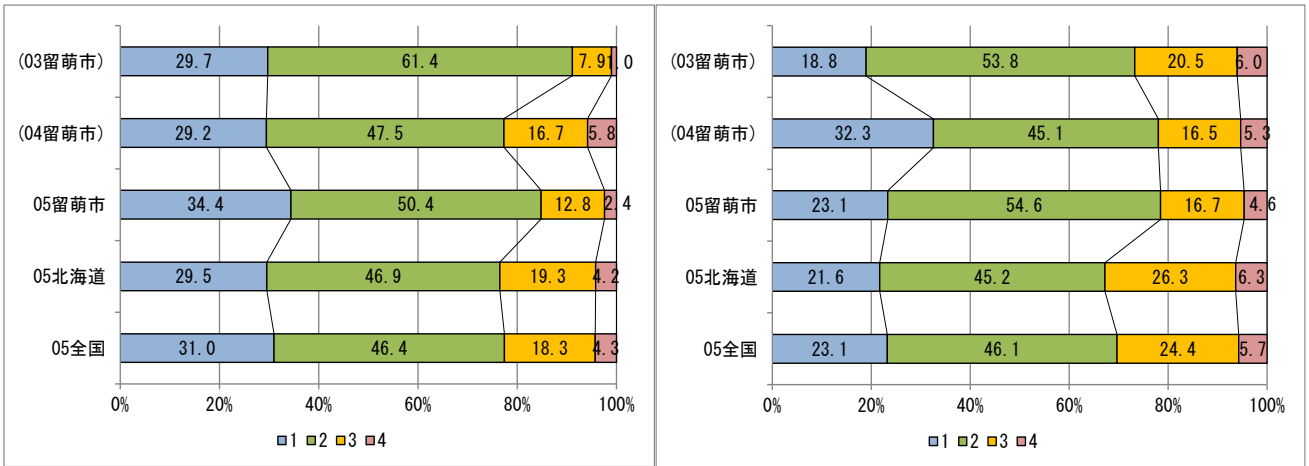
(2) 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 学級の友達と話し合う活動を行っていない



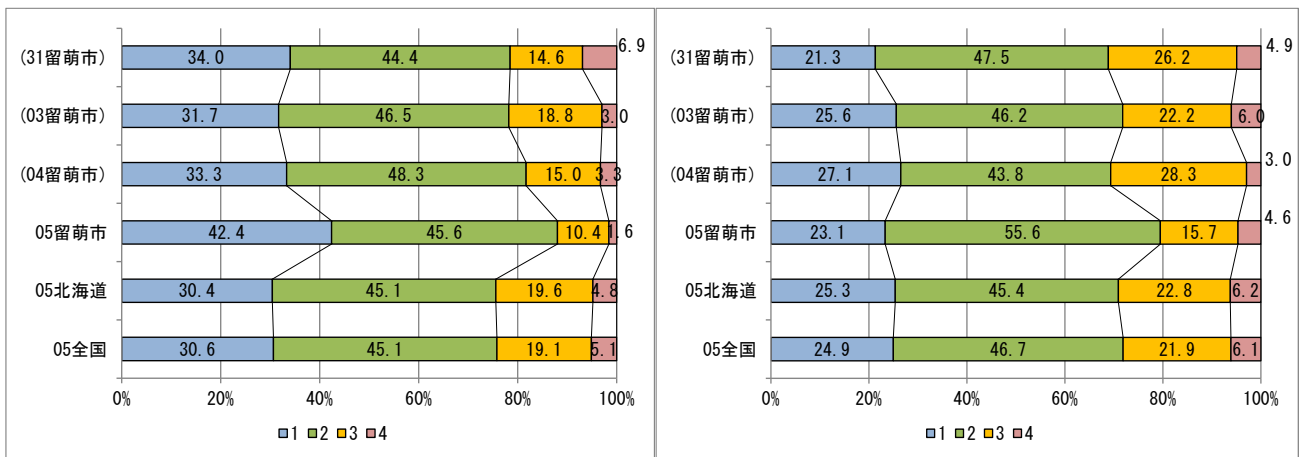
(3) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

選択肢は(1)と同様



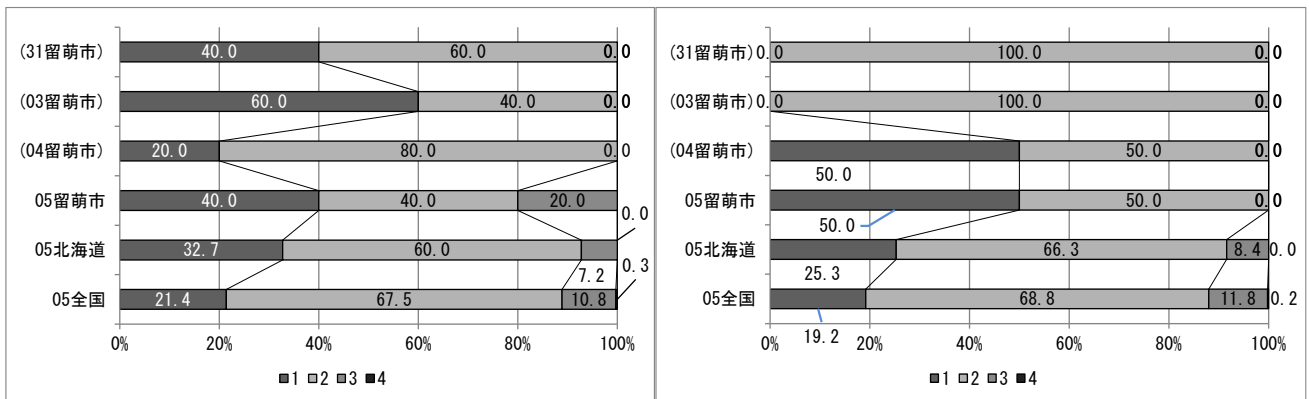
(4) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

選択肢は(1)と同様



(5) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

- 1 そう思う 2 どちらかと言えば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



【小学校】

- ◆ 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和4年度とほぼ同様である。
- ◆ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思うと回答した児童の割合は全国よりやや高く、令和4年度とほぼ同様である。
- ◆ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和4年度と比べても相当高い。
- ◆ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和4年度と比べても高い。
- ◆ 調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと80%の学校が回答している。

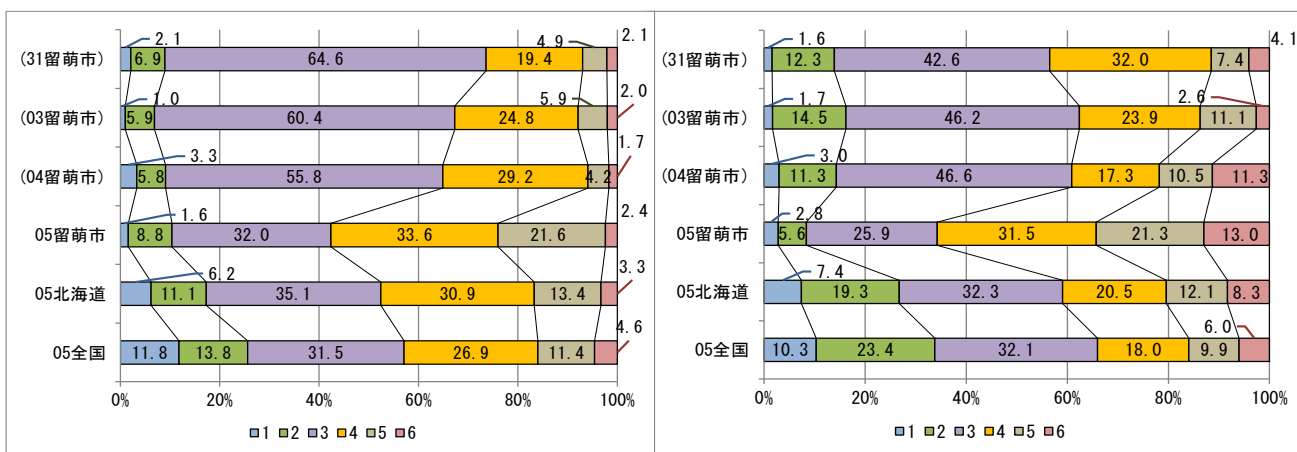
【中学校】

- ◆ 2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和4年度とほぼ同様である。
- ◆ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思うと回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和4年度比べるとやや高い。
- ◆ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和4年度と同様である。
- ◆ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和4年度と比べても相当高い。
- ◆ 調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

3 学習習慣・生活習慣等<児童生徒>

(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

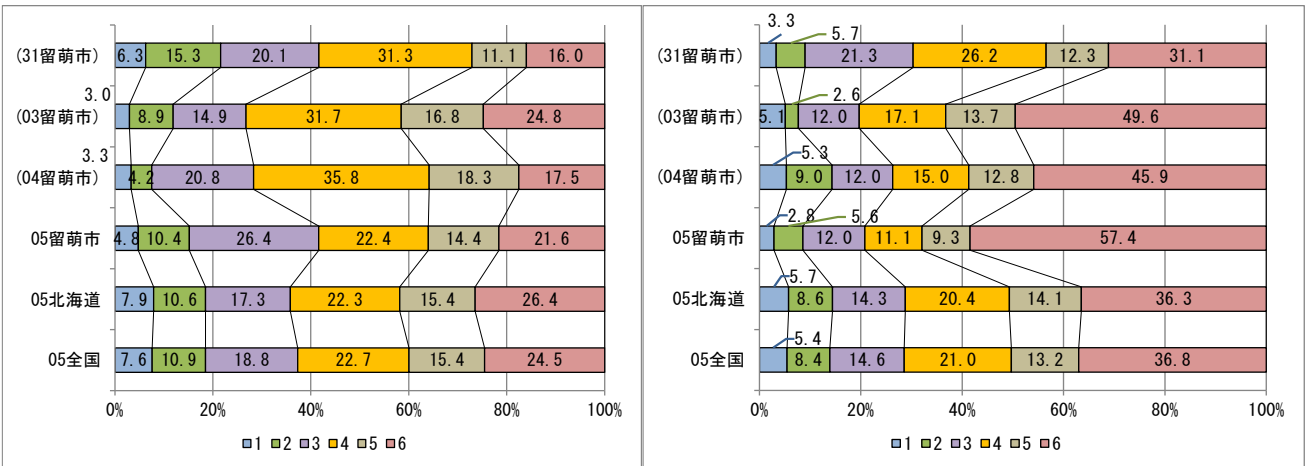
1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



(次のページにつづく)

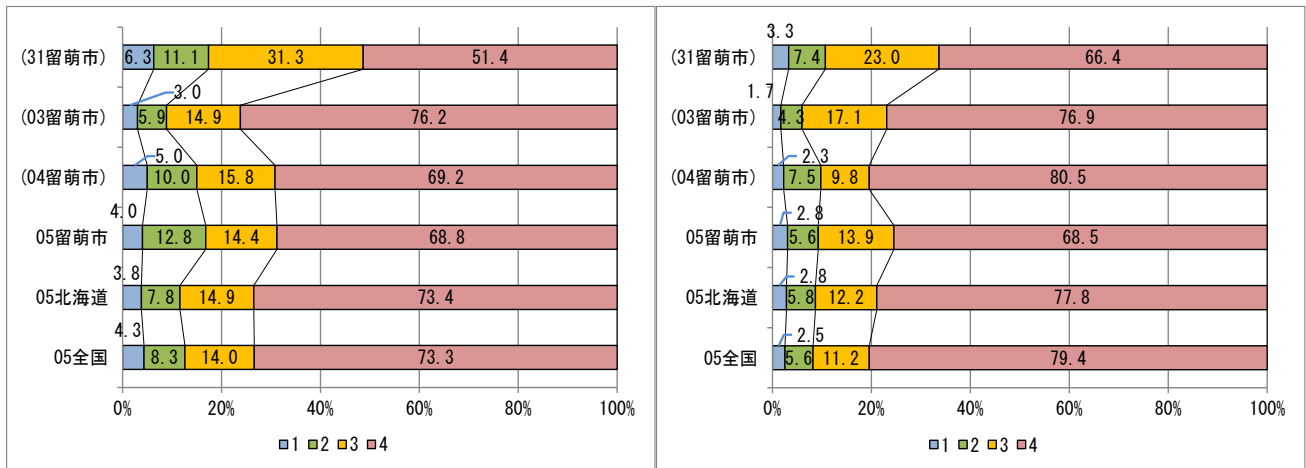
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



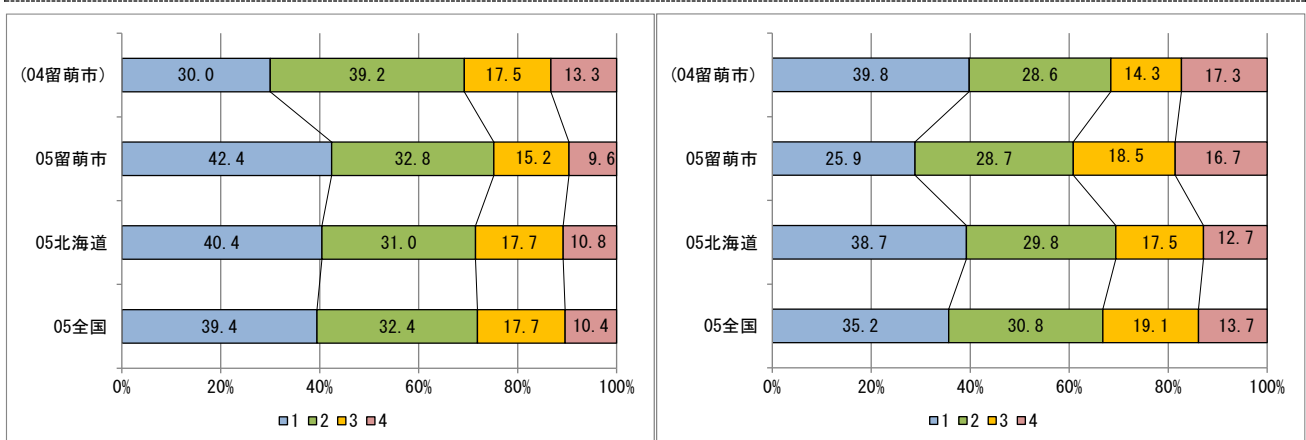
(3) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程程度読んでいる 3 月に1～3回程程度読んでいる
4 ほとんど、または、全く読まない



(4) 読書は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



【小学校】

- ◆普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は、全国より相当低く、令和4年度と比べても相当低い。
- ◆普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和4年度と比べると相当高い。
- ◆新聞を読んでいると回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和4年度とほぼ同様である。
- ◆読書は好きだと回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和4年度と比べると高い。

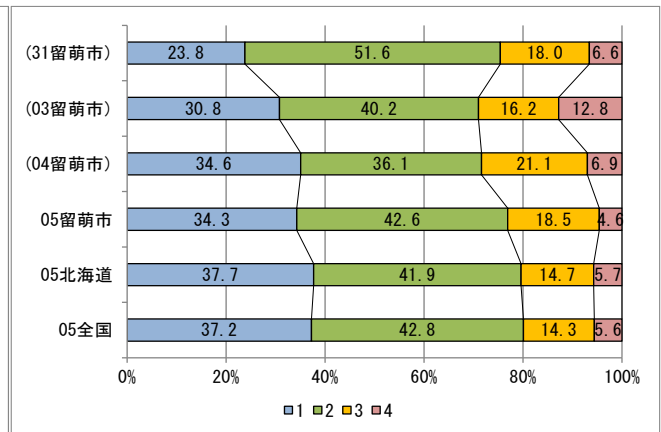
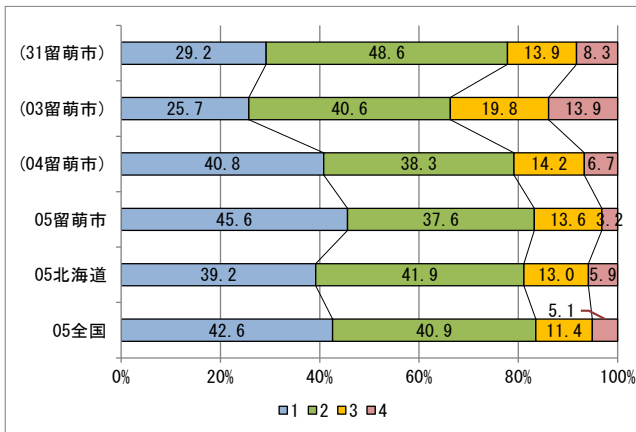
【中学校】

- ◆普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和4年度と比べても相当低い。
- ◆普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和4年度と比べると低い。
- ◆新聞を読んでいると回答した生徒の割合は、全国と同様であり、令和4年度とほぼ同様である。
- ◆読書は好きだと回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和4年度と比べても相当低い。

4 規範意識、自己有用感等＜児童生徒＞

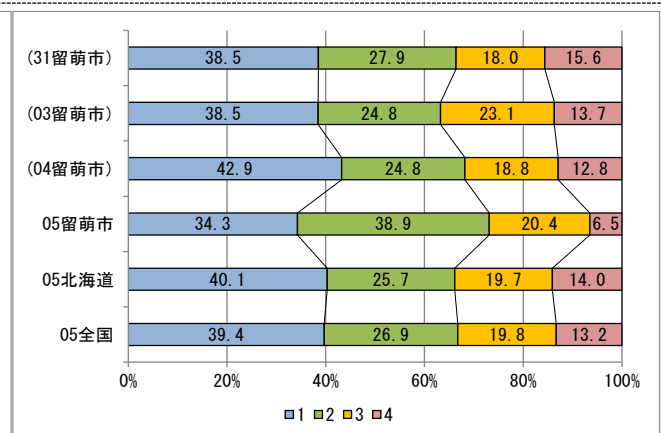
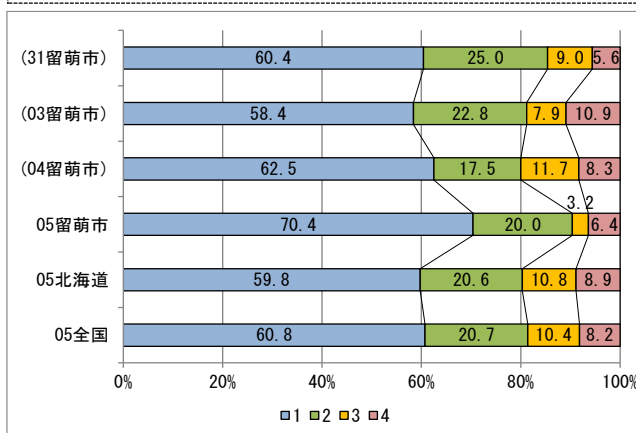
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



(2) 将来の夢や目標を持っていますか

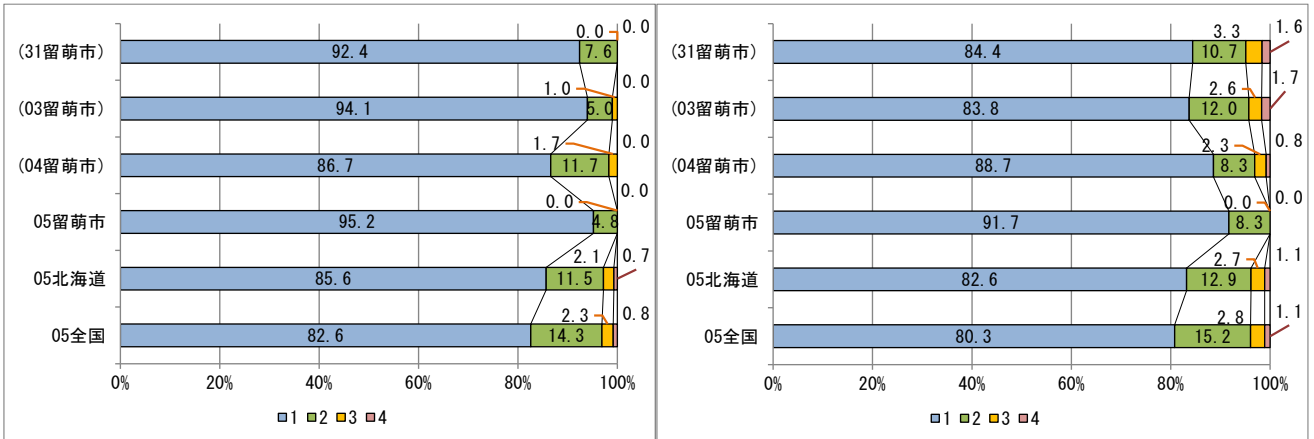
選択肢は(1)と同様



(次のページにつづく)

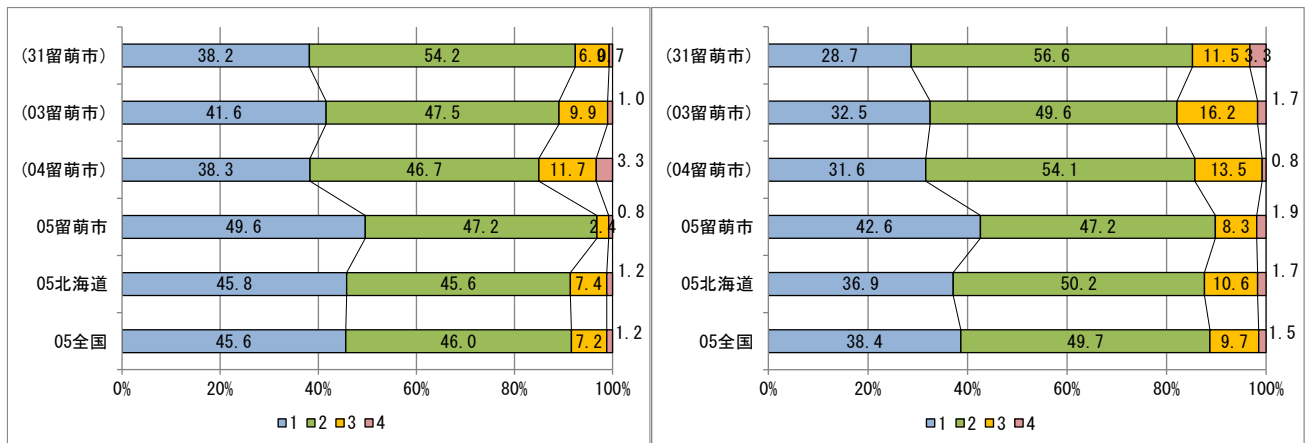
(3) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

選択肢は(1)と同様



(4) 人が困っているときは、進んで助けていますか

選択肢は(1)と同様



【小学校】

- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同様であり、令和4年度と比べるとやや高い。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和4年度と比べても相当高い。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、100%の児童が肯定的に回答している。
- ◆人が困っているときは、進んで助けていると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高く、令和4年度と比べると相当高い。

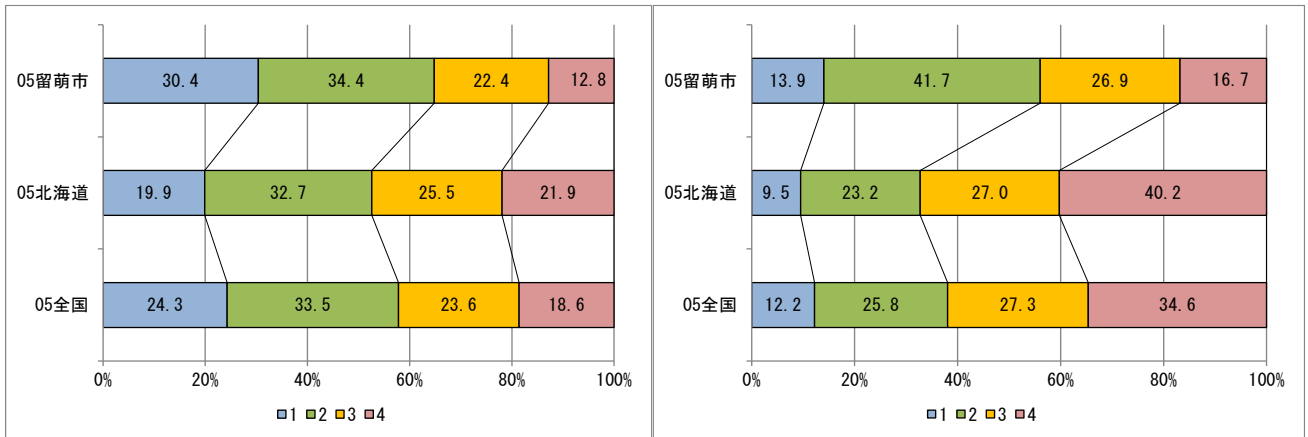
【中学校】

- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや低く、令和4年度と比べると高い。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高く、令和4年度と比べても高い。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、100%の生徒が肯定的に回答している。
- ◆人が困っているときは、進んで助けていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、令和4年度と比べるとやや高い。

5 地域や社会に関する活動の状況<児童生徒>

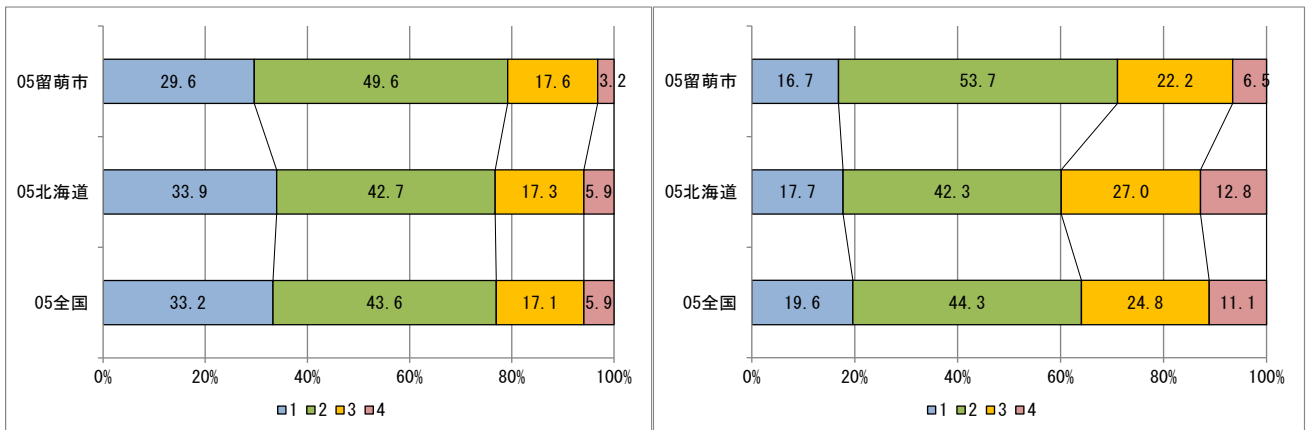
(1) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



(2) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



【小学校】

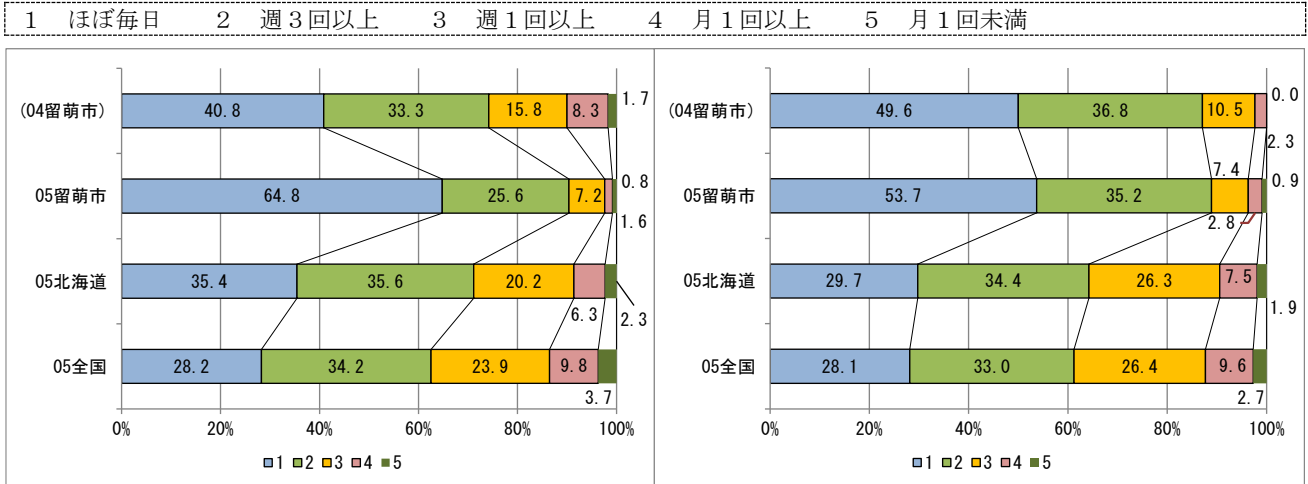
- ◆今住んでいる地域の行事に参加していると肯定的に回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと肯定的に回答した児童の割合は、全国とほぼ同様である。

【中学校】

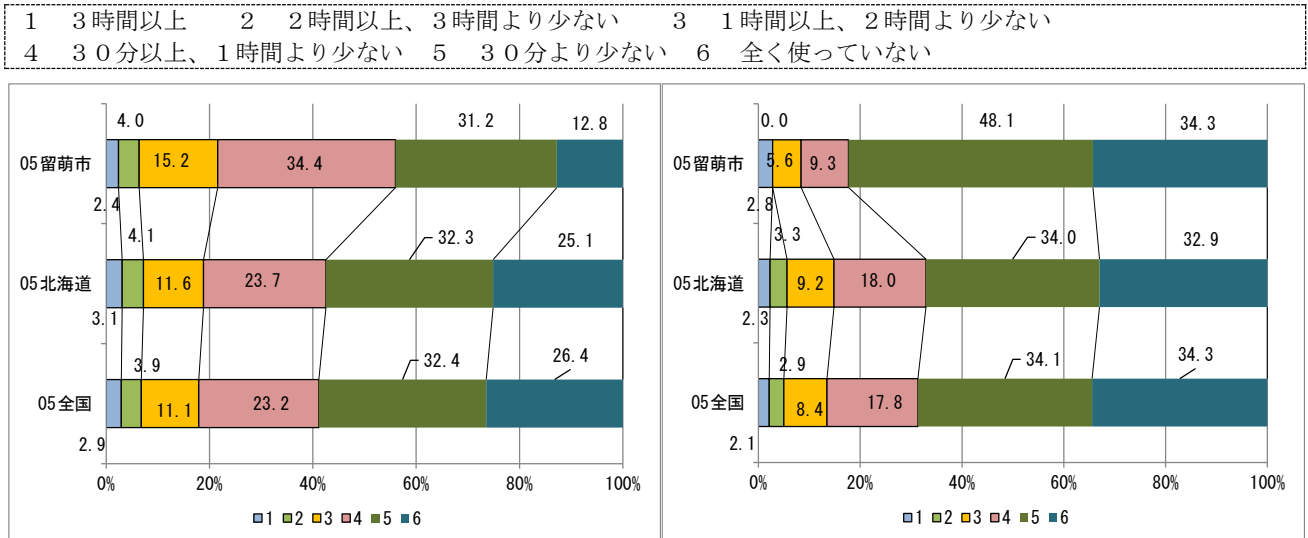
- ◆今住んでいる地域の行事に参加していると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高い。
- ◆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高い。

6 ICTを活用した学習状況<児童生徒>

(1) 5年生(1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか



(2) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



【小学校】

- ◆ 5年生までに受けた授業では、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和4年度と比べても相当高い。
- ◆ 学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていると回答した児童の割合は、全国よりやや高い。

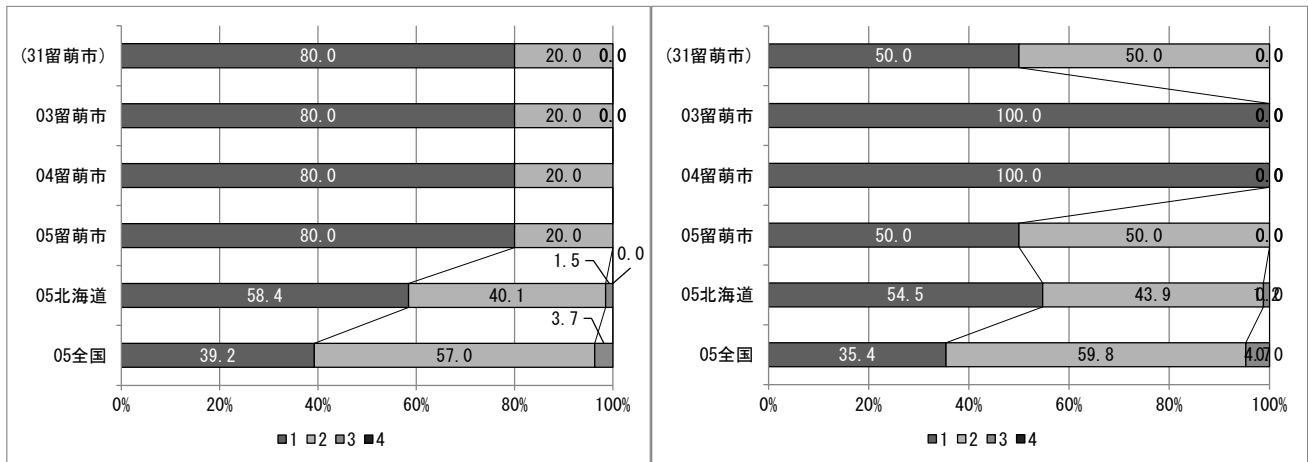
【中学校】

- ◆ 2年生までに受けた授業では、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和4年度とほぼ同様である。
- ◆ 学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていると回答した生徒の割合は、全国より低い。

7 その他<学校>

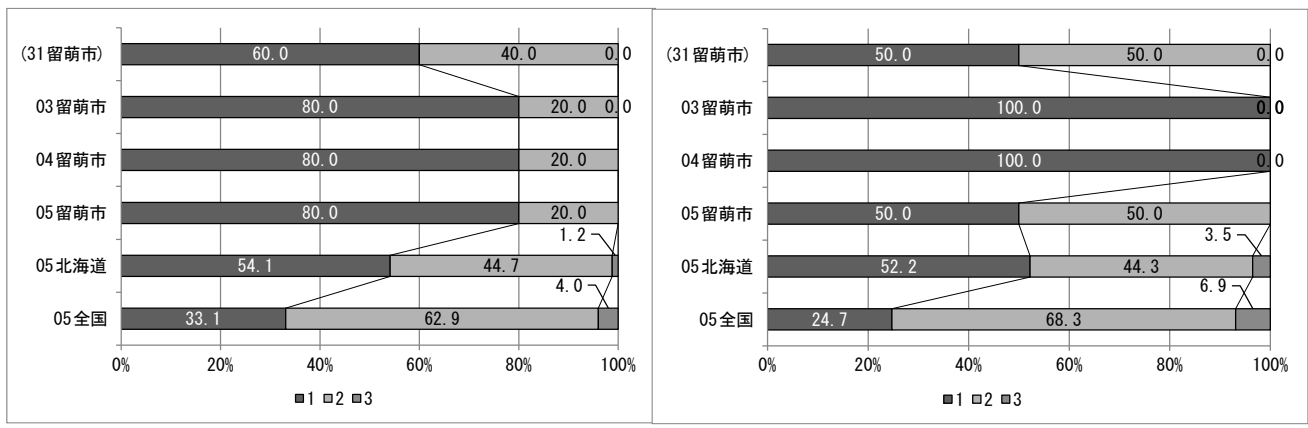
(1) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



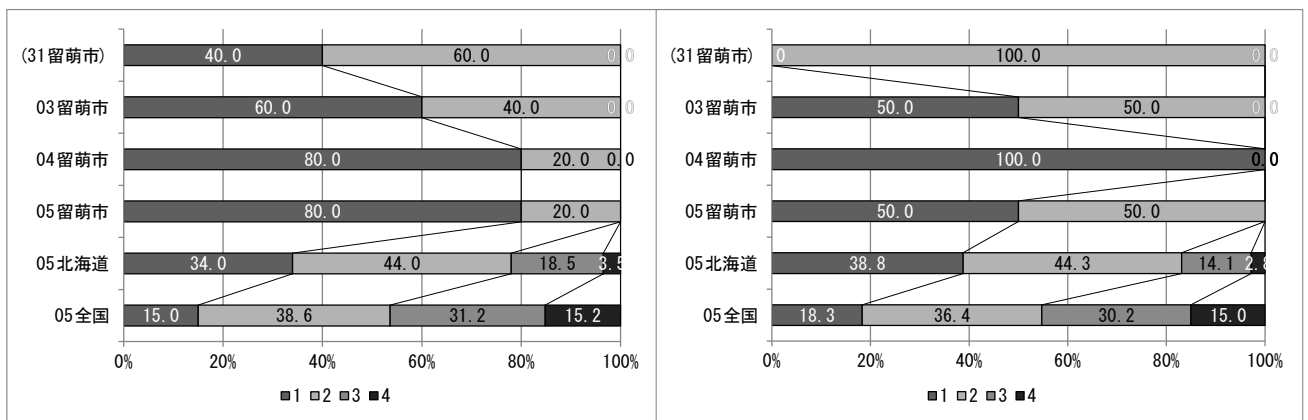
(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行わなかった



(3) 令和5年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった



【小学校】

- ◆児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを全ての学校で確立している。
- ◆令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ◆令和5年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣等の中学校と成果や課題の共有が行われている。

【中学校】

- ◆生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを全ての学校で確立している。
- ◆令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ◆令和5年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣等の小学校と成果や課題の共有が行われている。

IV おわりに

令和5年度全国学力・学習状況調査においては、例年実施している国語、算数・数学に加えて、平成31（令和元）年度以来4年ぶりとなる中学校英語が実施されました。本書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析してまとめ、報告としたものです。報告書の作成に当たっては、調査の結果が学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙調査から見える特徴的な状況等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「一人一台端末等のICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」など、様々な取組を鋭意推進しています。特に、一人一台端末の効果的な活用に向けて、全校的な広がりを目指した研修と日常実践に精力を注いでいるところです。また、昨年度導入したAI型教材「Qubena」（キュビナ）を活用して、子どもたち一人一人に応じた学びの実現にも努め、学習効果の一層の高まりを目指してきました。

今年度は、国語においては全国の平均正答率を小学校で1.2ポイント、中学校で2.4ポイント下回りました。算数・数学においては全国の平均正答率を小学校で3.6ポイント、中学校で0.8ポイント下回りました。4年ぶりの実施となった中学校英語においては、6.8ポイント下回っています。全ての教科で平均正答率が全国平均には達していないものの、中学校数学は全国と同様、小・中学校国語は全国とほぼ同様の状況にあります。しかし、小学校算数は全国よりやや低く、中学校英語は全国より低い状況となりました。（全国との差に関わる表現については北海道教育委員会の分類基準による）一方、児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果からは、学習内容の確実な定着のために学校と家庭・地域の共通理解のもと、引き続き学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を進めていくことが求められます。

こうした課題の解決に向けて、自ら考え、自ら進んで取り組む態度の育成を図るとともに、学習した内容を自ら振り返り、補充的・発展的な学びにつなげられるように小学校と中学校が連携し、9年間を見通して、学力向上と生徒指導の両面から目標を共有して指導に当たることが重要であると考えます。また、コロナ禍における教育活動への影響を分析・整理し、この間に学校教育を見つめ直して改善を図った取組を検証しつつ、新たな時代にふさわしい教育を構想し、着実な実践を積み上げていかなければなりません。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために未来を切り拓いていく資質・能力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務と考えます。今後も、各小中学校と教育委員会において、「今、目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が連携協働しながら改善・解決に取り組んで参りますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。